

1. 郷土芸能・伝統文化の継承について

(質問)

(1) 黒部市には、郷土芸能、伝統文化などが、現在どれだけ存在しているのか。また、それらを大切な宝であると認識があるのか伺う。

(答弁)

無形民俗文化財 7 行事、「獅子舞」(14 箇所)や盆踊り(12 箇所)、左義長(11 箇所)、「おおべっさま迎え」(3 地域)などが存在し、郷土芸能や伝統文化は、地域の大切な宝であると認識している。

(質問)

(2) 現在、認知させるため、またその価値に気付かせる為に行っていることはあるのか伺う。

(答弁)

平成 14 年度から「伝承芸能・伝承技術士」の認定制度を設け、それぞれ保存活動され技術の伝承、後継者の育成に努めている。今後も継続していく。

(質問)

(3) 郷土芸能の支援と指導者や後継者育成の現状をどう考えているのか伺う。

(答弁)

「伝承芸能・伝承技術士」は、地域の皆様が誇りをもって、次世代へ継承していこうと、取り組まれている表れであると感じている。

しかし、少子高齢化に伴い、伝承文化を支えきれず継承が難しくなってきた。方策を地域とともに考え、保存に努めていく。

(質問)

(4) 「ふるさと教育」を積極的に進めていけないのか伺う。

(答弁)

祭礼や放課後子ども教室推進事業において、子ども達が参加できる機会を作っており、小中学校においても子どもたちが喜んで参加できるよう支援している。今後も積極的に取り組んでいく。

(質問)

(5) 未来を見据えて冊子、あるいはデジタルでまとめる準備を始めてはどうか伺う。

(答弁)

現在は、少しずつ調査を進め、まとまったものから展示紹介している。積み重ねていくことで、やがて、デジタルでまとめられるか、さらなる情報発信の方策を検討する。

(質問)

(6) 現在、そして 10 年後にはどうなっていると思うかを知る上で聞き取り調査を行ってはどうか伺う。

(答弁)

現状把握に努めている。さらに現状として、地域が、どのように考えるかも含めて調査することは可能であり、今後も、現状の把握に努めていきたい。

(質問)

(7) 郷土芸能、伝統文化だけではなく、史跡なども含めて、今後(10 年後)の存続が危ぶまれる。「黒部市危機遺産リスト」の作成をしてはどうか伺う。

(答弁)

存続危機は認識しているが、「黒部市危機遺産リストの作成」については、現時点で実施することは、難しいと考えている。

まさゆきの視点

地域の宝である郷土芸能、伝統文化などを伝承していくのは簡単なことではなく、実際に消えてなくなっているものも多く存在する。時間は待ってくれない。それが実際に盆踊りという郷土芸能を伝承している自分自身を含めた伝承者の声である。

今回提案した黒部市危機遺産リストは今後も働き掛けていくし、自分で少しずつ作成していきたいと思う。

2 公民連携 (PPP) について

<質問>

(1)本市において公民連携の取組みと必要性について、どのような考えか伺う

<答弁>

本市でも、PFI 事業を活用するなど、公民連携に取り組んできた。
今後も、必要に応じ導入の可能性を検討していくべきものと考えている。

<質問>

(2)気軽に相談できる窓口の開設や意見交換会、セミナー開催などを検討してはどうか伺う

<答弁>

『とやま地域プラットフォーム』において、民間事業者や金融機関、公共団体を対象としたセミナーや意見交換会に参加し知識の習得・理解に努め、今後、機会を捉え広く市民への PR も図っていく。

<質問>

(3)NPO などの市民団体の支援について伺う

<答弁>

支援というよりも、団体の自立を促し、その活動のサポートにつながる情報提供や事業連携などを進めていきたい。

<質問>

(4)公民連携について、目的、考え方、導入範囲など一定の決まりである「指針、ガイドライン」を本市において策定してはどうか伺う

<答弁>

平成 22 年に「黒部市協働のまちづくりガイドライン」を策定し、少しずつではあるが、協働の理念が広まっている。

しかし、民間の活力や資金を活用し、公共サービスを実施するという意味での公民連携に関する指針や、ガイドラインは現在策定していない。今後、先進事例等を調査研究していきたい。

まさゆきの視点

人口減少・少子高齢化で税収が減り、求める仕事も多様化する中で今後、行政の役割も時代と共に間違いなく変化してくる。変化するスピードも速くなっ

ているのではと感じている。協働という枠組みから公民連携へ。良い答弁はいただけなかったが、今回の提案で一石を投じたと自己評価である。